

# 記憶

永田円了

## Memories



わたしを離さないで

記憶とは、意識的にも無意識的にも、私たちの喜怒哀楽の根底に横たわり、まるでアゴで指図するように人を支配する。特に痛みを伴うような悲しい記憶はトラウマになり、波のように押し寄せる。

エネルギーを失い、疲れ果てた身体はまるで津波で押し流された家屋のように、瓦礫と化す。この記憶という魔物に対処する手立てはないのだろうか。

今回のテーマは、人の心の奥底に潜むメモリーの正体を明らかにし、そのエネルギーを肯定的に生かすことを考えてみたい。

### ペットメモリー vs. ノスタルジックメモリー

ペットメモリーとは、『わたしを離さないで』の著者・カズオ・イシグロ氏と分子生物学者・福岡伸一氏との対談で出たコトバである。ペットのように飼育慣らされたメモリーという意味で使われている。

人間は自分に起こった事柄をただの出来事としてはとらえない。その出来事に何らかの自分色をつけて記憶の部屋にしまい込む。つまりこのペットメモリーという代物は、人の感情と思考でこね上げられたメモリーなのである。またの名を、恨み、悲しみの塊メモリーとも言える。



カズオ・イシグロ

一方、こういう体験はないだろうか。家族の遺品を片付けていて、ふと昔のアルバムを開く。そこには、若かった両親の姿、抱っこされて満面の笑みをたたえる赤ちゃんの自分。無償の愛で見つめる母親の眼差し。写真の情景からにじみ出る時空を越えた温かさ。つい仕事の手が止まって、昔の記憶に浸ったことはないだろうか。この想いのことを、ノスタルジックメモリーと呼ぶ。

この想いを呼び戻すことができるなら、本来の自分が“生かされた証”を思い起こすことができるなら、たとえ舟がひっくり返っても、大丈夫。

たとえ何が起ころうとも、大丈夫、できる、続ける。大丈夫、できる、続ける

#### <事例>

ETV 特集「選「カズオ・イシグロをさがして」より、“古い記憶を整理する”  
カズオ・イシグロ原作「わたしを離さないで」 Never Let Me Go より、  
イシグロ と 福岡伸一の対談より、“ペットメモリーvs.ノスタルジックメモリー”  
米映画「マグノリア」より、“ペットメモリーの呪縛から、ノスタルジックメモリーに入る  
故・ダイアナ妃のスピーチより、今まで溜め込んでいたペットメモリーを精算する  
内観療法、“してもらったこと、して返したこと、迷惑をかけたこと”を思い起こす  
映画「明日の記憶」より、最後に残るのは、ノスタルジックメモリー  
NHK ドラマ「八日目の蟬」より、ペットメモリーを反面教師として、ノスタルジックメモリーを創る  
ヨイトマケの唄 / 美輪明宏(怒っている)、森進一(悲しんでいる)、中村美津子(感謝している)



佐伯雅行 49歳  
渡辺 謙 主演